

令和5年2月2日

保護者の皆さんへ

しらぎく幼稚園  
園長 東海林 肇

## 園長だより「かけはし」

「春は、あけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは、すこしあかりて、紫だちたる雲の、細くたなびきたる。・・・」これは平安時代の随筆「枕草子」の一節です。春は、夜明けがいい。だんだんと白くなってゆく山際の空が、少し明るくなって、紫がかった雲が、細くたなびいているのがいいと清少納言は歌っています。この描写は季節や自然の美を表している以上に子どもたちのこれからの成長について書いてあるようにも感じてしまいます。人生の春に当たる子どもの頃は、時を経てたくさんのことを学びます。そして年齢や発達段階に応じた態度と能力を身に付けていきます。春の到来は子どもたちの成長の序章で心をわくわくさせてくれます。また別の意味で新型コロナウイルス感染症という長く続いた冬に終わりを告げ、素晴らしい年になっていけばいいなと思ってしまいます。あっという間に1月が過ぎました。まだまだ寒い日は続きますが、明日の節分、明後日の立春を迎え、いよいよ春が到来する季節です。



### 「鬼は外！福は内！」と「恵方巻」

豆まきは一家の幸せを願う行事で、豆まきのあとは、1年を無病息災で過ごせるよう福豆を食べます。食べる豆の数は一般的には満年齢+1。小さい頃はたくさん食べたいなと思っていましたが、今は年を取り過ぎ、たくさん食べられるようになりました（100はこえていない）。それでも足らず、ついたくさん食べてしまっって・・・。ここまでは昭和時代からあったもの。続いて平成になって登場した恵方巻。少なくとも自分の記憶では、もともとは関西地方の風習で、20世紀の終わり頃にセブンイレブンが全国発売をしてその後、徐々に認知度が広がっていった21世紀の初め頃、約20年前から一般的になってきたように思います。この20年の間に若干、商業的になり過ぎていろいろな恵方巻も登場しました。たとえばボリューム感たっぷりのメガ巻き、たとえばステーキとフォアグラやトロといくらが巻かれたセレブ巻き、なぜかパンにのりを巻いたユニークなものまで登場しました。いつの時代も文化はこんな形で拡がりを見せ、変化していき最終的に良い形に落ち着いていくものだと思います。そして次の元号に代わるだろう21世紀半ばには恵方巻きは、日本の古きよき風習となっていることでしょう。では今年も無病息災を願ってよい年にしてください。今年も南南東ということで、その方角を向き、願いを込めて無言で一気に食べようと考えています。

